

# いつも一緒 富山のペットたち

ウサギの飼育頭数が年々増え、それに合わせて病院での診察件数も増えています。首スベースで飼育できる、鳴き声などの騒音が少ないといった理由で飼う人が増えているようですが、ウサギの飼育は意外と難しいものです。



沖田 将人  
アレス動物病院長  
(高岡市下伏間江)

今年はずきぎ年。新年1回目のこのコーナーでは、人気が高まっているウサギの飼育方や注意点を紹介し

まずは、ウサギは犬や猫とは大きく違うことを、きちんと理解してあげる必要があります。最大の違いは、非常に骨がもろいことです。

ウサギの骨は「含気骨」という空気を含む骨で、とても軽く、そのおかげで敵に狙われたときに素早く逃げる走力が得られます。ただ、軽いためにもろく、折れやすい構造になっています。びっぴりして急にケージの中で飛び上がった、板張りのフローリングで転んでしまった、爪切りなどの日常のケアで十分注意を払ってあげなかったりすると、簡単に骨折します。

## ウサギの飼育



ウサギの骨は、もろく折れやすい。診察も急に動きださないように注意して行う＝アレス動物病院

# 骨折や食欲不振に注意

治療はとても難しいのです。病院でもウサギの診察は非常に気を使います。バスタオルなどで優しく包み、抑え過ぎたり急に暴れだしたりしないように、支えながら検査や処置を行います。

次に挙げられるのは、胃に入ったものを吐くことができないという点です。万一、異物や毒物を口にしてしまっても、犬や猫のように吐かせたり、胃を洗

浄したりという治療方法で救うことができません。それでいて非常に好奇心旺盛で、身の回りのものは何でもかじってみる習性があります。部屋に出して遊ばせるときは十分な注意が必要で、カーテンは巻き上げ、床に落ちていないものがないか確認を。電気コードはケーブルカバーなどで隠しましょう。

3点目は、長時間の食欲不振に耐えられないということ

です。ウサギに限らず体の小さい生き物はみなそうですが、病気を極力隠そうとします。ですから、ウサギが食欲不振になったり、あまり活発に動かなくなったりすると、その時点でかなり深刻な状態になっていることを意味します。

ウサギは特殊な体の構造をしており、食欲不振が24時間続くと、胃腸の運動機能が低下します。こうなると胃腸内の食べ物を

ん。しかし、この苦勞に見合うだけのかわいさがあり、癒やしを与えてくれる、素晴らしいコンパニオンアニマル(人生の伴侶としての動物)です。仲間意識が強く、慣れると「なでて」とそばに寄ってきてくれるようにもなります。

かわいさだけに引かれて無計画に飼うのではなく、十分に飼育方法を調べ、環境を整えて、大切な家族として迎え入れてお

の塊が動かなくなり、発酵してガスがたまり始めます。ガスがたまると苦しくなり食べられない、食べられないとますますガスがたまる。悪循環で症状が進行していきます。

原因が打撲や骨折、食事のあげ忘れなど何であろうと、24時間食事を取れないまま放置すると、緊急事態に発展してしまうのです。

大切なのは、いつもより食欲や元気がない、便が小さいといった、ちょっとした変化も見逃さないことです。自分で判断せず、すぐに動物病院に問い合わせてみるべきが求められます。ウサギを飼うのは、犬や猫を飼うより難しいかもしれませ

「いつも一緒 富山のペットたち」は、毎月第1木曜日に掲載します。

◆ げんくさき。